

2017.5

vol. 110

改訂版 vol. 40

# 女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



## はじめに

女性委員長 高野栄子

陽春の候、委員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

春の日差しがこちち良くなりましたが皆様お変わりございませんか。

今年度、引き続き高野が委員長を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。みなさんの興味のある楽しい研修などを企画しますので是非ご参加ください。

また、今年度は東海北陸ブロック会後期会議が岐阜で開催されます。来年2月に岐阜市で開催します。現在順次準備を進めておりますが、当日は皆さんにもできるだけご参加いただき、お手伝いをお願いしたいと思います。普段は、忙しく委員会活動になかなか参加できない方や、お久しぶりの方もぜひご参加ください。お持ちしております。一緒に会議を盛り上げてください。東海北陸ブロックの女性建築士の方をおもてなしいたしましょう。

これからも、皆様に協力いただき委員会活動を行ってまいります。

至らないところも多々あると思いますが、忌憚なくご意見ください。

一生懸命努めさせていただきます。



## 今回の記事

- ◇ はじめに
- ◇ 今回の記事
- ◇ 今後の予定・お知らせ
- ◇ 第59回建築士会全国大会「大分大会」  
日時:平成28年10月22日(土) 23日(日)
- ◇ 第36回 建築文化講演会  
日時:平成28年11月12日(土)
- ◇ 見学会「モザイクタイルミュージアム」  
日時:平成28年11月17日(木)
- ◇ 女性委員会&新年会  
日時:平成29年1月19日(木)
- ◇ 第2回 たくみ女子会  
日時:平成29年2月4日(土)
- ◇ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議  
平成28年度後期定期例会議 つるが大会  
日時:平成29年2月25日(土)~26日(日)
- ◇ 第16回 気楽にらくだ会  
「岐阜公園周辺を散策する会」  
日時:平成29年3月23日(木)
- ◇ 岐阜県歴史的建築物ガイドブック・目録の製作  
岐阜県建築指導課からの委託事業
- ◇ 平成28年度 総会  
日時:平成29年5月25日(木)
- ◇ 編集後記
- ◆ 第27回全国女性建築士連絡協議会(東京)  
日時:平成29年7月15日(土)~16日(日)



## 今後の予定・お知らせ



## 第59回建築士会全国大会

### 「大分大会」

日時:平成28年10月22日(土) 23日(日)

会場:別府国際コンベンションセンター

ビーコンプラザ

(大分県別府市山の手町12-1)

別府市公会堂

(大分県別府市上田の湯町6-37)

テーマ:

「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生  
おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵

参加者:4名

## 建築士会全国大会

### 「大分大会」に参加して

報告者:長瀬八州余

第59回建築士会全国大会「大分大会」が平成

28年10月22日(土)に開催されました。  
私たち岐阜県女性委員会は、4名の参加でした。  
そのうちの下川さんが「福祉まちづくり部会」で  
発表をされるということで、前泊で別府に行きま  
した。

#### 10月21日(金)

小倉まで新幹線で小倉から別府まで特急ソニック  
(白色)に乗りました。座席は革張りで豪華で  
した。特急ソニックは白色と青色があり内装も違  
います。白色ソニックの座席は最初すべて革張り  
でしたが、滑りやすいということで古くなった座  
席から順次布に換えているということでした。プ  
チ情報としてエキスカッションの時のバスガイド  
さんが教えて下さったのですが、別府~大分間下  
りのみ車内案内はテレビ番組「世界の車窓から」  
のナレーターの石丸謙二郎氏がおこなっている  
ということです。私たちは、別府で降りたので聞く  
ことができませんでした。



(特急ソニック(白)の車内の様子)

別府は「別府八湯」と言われる8つの温泉地で  
構成されています。今日のお宿はまちの中心地に  
位置する「別府温泉」エリアにある野上旅館に泊  
まります。



(旅館入り口)

お昼を食べて、旅館に荷物を置いて、少し観光  
をします。「別府市竹細工伝統産業会館」と「大  
分香りの博物館」を見学しました。旅館はもとよ  
り会館でも博物館でもすぐにタクシーを呼んで  
いただくことができました。



(別府市竹細工伝統産業会館内にて)



(大分香りの博物館入り口)

下川さんは明日の打ち合わせのため途中で別れ、夕食で合流し、居酒屋で海鮮料理をいただきました。

### 10月22日(土)

朝から雨でした。タクシーでメイン会場の「別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ」に行き受付をします。下川さんはパネラーとして参加するので、すぐに打ち合わせに向かいます。小林さんが午前に参加する「第4回ヘリテージマネージャー大会」は会場が異なり別府市公会堂です。ビーコンプラザからシャトルバスが出ていると思っていたら、ここで受付を済ませて別府市公会堂へ行かれる方を想定していないということで、タクシー等で行ってくださいという説明でした。受付を済ませなくても、直接別府市公会堂へ行って参加できたようです。しかしそのお知らせは何所にもなかったように思います。少し不親切ではないでしょうか。小林さんはタクシー乗り場に向かい、桂川さんと私は、10時まで時間があるので交流セッションの「折り紙建築フォーラム」へ行き、講習を受け、作品を作りました。大分県内の建物をオリジナルで作っていて、その方から直接教えていただく事ができました。作者の方は、オリジナルを作るのは大変だが、すごく楽しいとおっしゃっていました。



(講習を受けている様子)



(作品と共に記念写真)

時間になり桂川さんは、女性委員会担当の「和室についての報告」私は下川さんが発表される「福祉まちづくり部会」へ参加です。

12時各プログラムが終了後、4人で集まり昼食です。本来ならビーコンプラザ レセプションホールと芝生広場が昼食会場ですが、あいにくの雨ふりのためにレセプションホールでの食事となりました。



(お弁当)



(食事会場の様子)

昼食後下川さんは家の用事のため岐路につきます。

午後から、小林さんは「建築相談本部会セッション」へ、桂川さんは「環境部会セッション」へ、私は「記念講演」へと向かいます。

15時からの式典は、コンベンションホールでブロックごとの席割りがなく自由でした。今回の大会参加者は約3,100名ということです。

オープニングセレモニーは日本文理大学チアリーディング部「BRAVES」の華麗な演技でした。その後、開会宣言、開催県会長挨拶、国歌独唱と続きました。



(チアダンス)

来年は平成29年12月8日(金)京都府です。例年通りの10月開催では宿泊が取れないということで、1年の内で比較的行事が少ない12月開催ということになったようです。



(大会旗引き継ぎ後、京都府土会の挨拶)



(会場ホールの一角に京都府のブースがあり、着物

姿の人もあります。)

17時に式典終了で、シャトルバスにて別府駅に向かいます。シャトルバスを待つ列に並んでいるとき、シャトルバス係の建築士会の方に大分県のお土産は何でしょうかと尋ねたところ「ざびえる」ということでした。フランシスコ・ザビエルが大分へキリスト教布教に来ていてそれでこういう名前のお菓子があるということです。帰るまでに買わなくてはと思いました。



(お土産 ざびえる。味は2種類あります。)

別府駅から大分駅にJRで行き宿に向かいます。荷物を降ろして、ホテルで食事処を聞いて行ってきました。昨日よりはリーズナブルでしたがおいしかったです。

大分建築士会のユニフォームは2種類ありました。青色の長袖と黄色のベストタイプです。



(モデルありがとうございました。)

**10月23日(日)**

エキスカーションに参加です。

小林さんはEコース「静寂な山荘と湯の坪街道の秋を巡り湯布院のまちづくりのビジョンを学ぶ」桂川さんと私はBコース「杵築の街並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る国東半島特別拝観ツアー」に参加です。両コースともバスは2台でした。大分建築士会のエキスカーション担当の方は、Eコースは人気がありバスが2台になるかなあと考えていましたが、Bコースがこんなに人気になるとは思っていませんでしたとの事です。

Bコースの大分建築士会担当の方が、昨日シャトルバスの乗り場でお土産の話をうかがった方でした。

見学を終えて、大分駅に集合して、お弁当を買い、特急ソニックに乗って帰路につきました。帰りのソニックは青色でした。内装も白と異なっています。



(特急ソニック(青)の内部)

三日間とも雨に降られましたが、無事に、楽しく過ごすことができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。



## 【セッション報告】

- \* 第4回 ヘリテージマネージャ大会
- \* 和室についての報告(女性委員会)
- \* 福祉まちづくり部会
- \* 建築相談本部会
- \* 環境部会活動報告と今後の展開
- \* 記念講演

## \* 第4回全国

## ヘリテージマネージャ大会

報告者:小林教子



(会場の様子)

### テーマ「熊本地震による歴史的建造物の被災状況と今後の対応」

趣旨 平成28年4月14日(前震)と16日(本震)の熊本地震による歴史的建造物の被災への対応は、行政による被災建築物応急危険度判定、被災宅地危険度調査、家屋被災認定調査などの調査、文化庁による文化財ドクター調査が進めら

れる中、ヘリテージマネージャーはどのように活動をしたのか。そして、復旧・復興への道のりはどのようなものか、被災の状況を直視し、今後どこにでも起こりうる災害に対して、ヘリテージマネージャーの事前・事後の対応について見つけ、考える。

## 事例報告

- 大分県の歴史的建造物の活用推進と地震対応 日出町山荘の改修事例と別府市における地震被害建築相談
- 熊本地震による歴史的建造物の状況と対応
- 九州ブロック連携協定に基づく被災歴史的建造物調査の実際と展望
- デジタルマップを活用した被災状況模擬調査

現在ヘリテージマネージャーは全国 47 都道府県中 40 県にて活躍中。隣県の資格取得については検討課題である。

文化財指定されていない無指定の一般建造物についての修理は、復興基金を利用することができる。また、中小企業支援制度は中小企業所有の施設（酒屋などの建物）には利用できる。

今回の会場別府公会堂は熊本大震災前に改修されており、耐震改修（RC 補強壁、S 補強）

天井改修（漆喰天井改修）、バリアフリー改修により無事。



しかし、未指定の歴史的建造物は「文化財である」建造物としての価値づけをする必要があり、それには対象となる建造物の確実な把握、行政と所有者との信頼、復旧への的確の助言、他の支援組織との連携協力が重要。早急な対応ができないと、震災により被害を受けた歴史的建造物は消滅してしまう可能性が高い。

九州ブロックは連携協定に基づいて、熊本地震時の被災歴史的建造物の調査が行われた。応援体制をもとに柔軟に対応、行政は災害対応ですぐには動けないので模擬訓練や、事前のリストアップ化やネットワーク化によりすぐに対応ができた。

ただし、人が動くときの金銭的バックアップが課題。

国交省（住宅）と文化庁（文化財）のはざまにある建造物は歴史街づくり行政で拾っていくべき。

## まとめ

人とネットワークとリストが災害対応時重要。今後それらの使い方、広域連携の進め方が課題である。



（会場の別府市公会堂）

## \* 和室についての報告

### (女性委員会)

報告者: 桂川麻里

#### 「和室の魅力を次世代に引き継ぐ」 連合会女性委員会

午前中は和室のある住宅を建てたいという思いはありますが、なかなか思うようにいかず、何かヒントが欲しくてこのセッションに参加しました。今年の全国女性建築士連絡協議会(奈良)で協議した結果等を踏まえて、全国大会のキーワードである地域の創成をベースにした「日本の暮らしのあり方」の取組を聞きました。

奈良での基調講演と和室についてのアンケートの結果の報告を受け、奈良県・富山県・東京建築士会のパネリストの方のディスカッションという流れで進んでいきました。

基調講演の報告では、和室建築から継承すべきポイントとして、①ビルトインの知恵 ②建具の開閉による空間の文化 ③畳の感触(世界一の敷物) ④縁側 ⑤木造の伝統建築 の5つを挙げていました。

これに関してはきれいにまとめられていて今後活かせると思いましたが、次のアンケートの結果で「和室=畳」というイメージが建築業界の中でも蔓延していると知り、本当に和室の文化が廃れていっているのだと実感しました。

その後のパネリストの方々に伝統的和室の解説と地域性を活かした和室の住まいの継承の仕方、現代風にアレンジしたモダン和室の可能性のお話をして頂きました。

地域性を活かした住まいのお話では、建替えや改修をしても外観や全体のプランはそのまま、共通していることは「アズマダチ」の精神を引継ぎ、明るく風通しがよく、2間続きを残しているということで、建築に携わる人ではなくその地域の人々が利便性だけをとるのではなく地域性のことも考えていることにすごいことだと思いました。最後は、伝統的和室における魅力、地域性を活かした住まいから得られる知恵や工夫、次世代に引き継ぐべき和室の魅力と日本の暮らしのあり方という内容でディスカッションして頂きました。

その中で、境界の曖昧さ(内と外:外→内→坪庭(外)→内→外)が和の魅力という言葉が印象に残りました。

途中全国の建築士会員の和の使い方の事例の写真を見せて頂きましたが、今現在の私の地域的な和の住宅にしか触れていなかったですが、色々な可能性があることを学ばせて頂きました。

方向性が曖昧なかで仕事をしてきましたが、次の仕事では『次世代に引き継ぐ』という観点から設計を進めたいと思いました。



(会場の様子)

## \* 連合会 福祉まちづくり部会

### セッションに参加して

報告者: 下川滝美

“「福まち部会」の発足にむけて その方向性を  
探る”

と題して「福まち部会セッション」が開催されました。私は奈良の全建女の時に事例の発表をお願いされたということをすっかり忘れていたのですが、事前準備はひと月半前から始まりました。今回は平成27年10月に基本的方向が了承されこの大分大会で設立に向けた宣言をしたいということで準備を進めていたのですが、各県の温度差や活動の違い、NPO法人との兼ね合いなどから設立宣言までは至りませんでした。

それでも今回活動の報告をされた島根県、宮城県、長崎県、東京の建築士会の方の報告をお聞きして

建築士としての知識を生かし、地域で福祉のまちづくり活動に取り組んでいる仲間がいることを嬉しく思いました。

私の報告は「岐阜県の高齢者等の住まいに関する相談窓口と研修の現状」ということで他の方とは違った発表となったのですがこれからの地域包括ケアシステムに置いて建築士がどのように在宅で暮らす方の力になれるかという流れを説明させていただきました。

理想の形なのですが岐阜県モデルとして進めていけたらと思います。

発表の中でもお話させてもらったのですが福祉まちづくり活動としてやっていきたいこととして①やさしいまちづくり②やさしい住まいづくり③やさしい人づくりだと思います。

若い方に興味を持っていただき福祉まちづくりが建築士として当たり前の技術の一つになったらいいなという思いで今後も活動をしていきたいと思っています。



(パネラーの下川さん挨拶)



(会場の様子)

## \* 環境部会活動報告と今後の展開

報告者: 桂川麻里

### 「気候風土型住宅・省エネガイドラインについて考える」

連合会環境部会

午後からは、2020年問題による省エネ講習を2013年から年何回か受けてきて省エネ住宅の重要性は理解していますが、構造もそうですが伝統的木造住宅の良さを無視したもので納得いってないところもあったので、「地域型」という言葉に惹かれてこのセッションに参加しました。

意図はしていませんでしたが、午前中の「和室についての報告」ともリンクしている内容で、和室、省エネ等と個々で考えていくだけでなく、連携していったらより良い判断が出来るのではないかと思いました。

まず報告として、国土交通省の方から「住宅の省エネ施策の最近の動向～気候風土適応住宅の認定など」をお聞きしました。

国の方の考えの中にも、今後の検討課題として伝統的木造住宅の取扱いを検討されていくこと、気候風土認定住宅に対する省エネ基準の緩和されていくことで、少し安心しました。

次は熊本県建築士会の方から「熊本県における気候風土適応住宅に向けて」という内容で報告を受けました。

こちらでも、2020年問題によって伝統的住宅での問題点など、地域性のある風景が失われ、景観が変わっていくのは違うのではないかとということで、士会全体で地域型住宅を考えるセミナー等を開催し、対処方法を考えていく取組をしているそうです。

しかし、熊本地震の影響で県との話し合いが進まない状態だが、地域の為に実務者自身がガイドライン実施案を作成していく方針だそうです。岐阜県では高山市では進めているらしいですが、気候風土型住宅についても知らなかったのは勉強不足なんだと実感しました。

その次は京都府では「平成の京町屋」ということで、独自に認定をし補助を出しているそうです。



国の考えている気候風土型住宅に近い形ということで、今後、京都府や熊本県のような取組を参考に各都道府県でも取組んでいく予定だそうです。今後、認定基準を早めによりしっかりしていくことが重要で、その中でも審査しやすい事、裏道として使われないように進めて行くそうです。

このセッションに参加した人には「気候風土型住宅の認定のガイドライン・同解説」を一式頂きましたが、HPでも検索すればダウンロードできるそうです。

和室もそうですが、省エネ基準によって、伝統的な住宅の良さがなくなってしまうとなると良いなと思いました。



(会場の様子)

## \* 建築相談本部

報告者: 小林教子

建築相談本部会のテーマ

- 建築士会の地域貢献と社会の役立つ建築士の存在をアピールする
- 建築界の信頼を取り戻す原動力とする
- 全国の建築士会の建築相談を活性化する
- 建築相談の体制づくり
- 建築相談を担当する相談員の研修
- 基調講演「建築士会の建築相談のあり方」

「建築士会における建築相談の普及ガイドブック 2016年度版」をもとに解説。

公的な建築紛争処理機関の紹介

- 建築審査会（許可・不服当）
- 建築工事紛争審査会（工事請負契約上の紛争）
- 弁護士会・紛争解決センター（弁護士会で実施している裁判外の紛争解決機関）
- 裁判所・民事訴訟
- 裁判所・民事調停

建築相談に関する活動紹介

面接相談の方法

建築瑕疵の法律問題

裁判所・瑕疵一覧表

- パネルディスカッション「面接相談と裁判所の建築調停」

テーマ (A)

### 1. 建築士会における建築相談体制づくり

• 東京建築士会…相談員 23 名 原則電話相談 常に意見交換研修し、情報の蓄積を行う。

顧問弁護士 2 名、相談員が直接電話し助言をもらう体制。専門分野を超えた相談を受けない。（どこへ相談するか紹介窓口の把握）トラブル相談は相談者の納得の得られる回答をする、または困った相談者のあしらい方を習得する。一般相談は知識のレクチャーを行う。現地相談はあくまでも相談とし、報告書なしで、断定は避ける

• 大阪府建築士会…相談員 50 名 原則電話相談。現地相談は有料（55000 円/日、33000 円

/半日）2 人一組、口頭での相談のみ。弁護士会と連携、セミナーを行う。

• 弁護士より…相談を受ける側のテクニック、研修・民法の習得必要。不法行為、個人情報管

理、守秘義務等のポイントあり。非弁行為（弁護士法に触れる行為）を行わない。

## 2. 建築トラブルの予防

- ・トラブルにならないために
- ・建築士がトラブルに巻き込まれないために

建築士会会員向けサービス

## テーマ (B)

1. 建築調停の瑕疵一覧表、追加工事一覧表
2. 建築トラブル相談



(発表の様子)

## \* 記念講演を聞いて

報告者:長瀬八州余

演題: どうしたらもっとしあわせになれるか、それを考えるのがデザイン

講師: 河北 秀也氏

iichiko アートディレクター

西 太一郎氏

「本格焼酎いichico」醸造元、  
三和酒類 (株) 取締役名誉会長

午後1時よりビーコンプラザ内のフィルハーモニアホールにて、記念講演がありました。

最初に河北氏の話があり、その後西氏の話でした。

今回、受付を済ませていつものようにパンフレット等の入っている袋をいただきましたが、その中に立派な写真集が入っていました。タイトルは「iichiko design 2017」で、「いichico」が今までメディアに出していた全ての物の写真集でした。(映像も写真です) オールカラーで1.3キログラムの重量です。



(写真集 表紙と開いて中の写真)

河北氏は福岡県久留米市出身で、三和酒類(株)が小さい地方の醸造メーカーの時にデザインを頼まれて、その時にデザインの下請けではなく対等の立場で仕事をやらしてもらおうと条件で仕事を受け、今にいたるということでした。

ポスターは毎月発行しクリスマスバージョンもあるので年間13枚のポスターを作っているということです。美しい日本の風景を求めて、全て外国で写真を撮っているということでした。今の日本は余計な物が有り過ぎて、ゴミだめになっているので、日本人が頭の中で描いている日本の美しい風景は海外でないと撮れなくなっているということでした。

デザインの概念も、日本は産業重点国家を作ろうとして、産業が中心になっていて、デザインといえば色や形の事になるが、ヨーロッパでは人が幸せな国家を作ろうとして、人間中心からの発想で、デザインは生活や暮らしの事になる。日本にはデザイン教育がない。1986年から文化科学誌『季刊 iichiko』という文化誌を発行しているということです。

西氏の話は河北氏を迎えて、クライアントとデザイナーが同じ立場に立って、事業を進めてきた事を話されました。

最初に河北さんにライバルはどこですかと聞かれ、大手のビール会社や洋酒会社かと思いましたが、河北さんは、ベイツ、BMW、トヨタだとおっし

やった。理由は、車の運転をしている間は「いいちこ」を飲むことができない。これから時間の取り合いのビジネスをしていきたいと思います」と提案されました。

我が社では毎朝、社員一同が「品質第一。安全運転」と唱和しますが、品質第一とは素材にこだわり、素材の良さを引き出し、期日にこだわり、作り手のイメージにこだわる事だと思っています。作り手の誠実さのイメージが大事なのだと思っています。

それから、河北さんには焼酎のイメージを高めていただきました。そしてブランドはお客様が作ってくださるのです。

売ってくれる人がいて、買ってくれる人がいるから物が売れるのです。今、私は一営業マンとして全国を駆け回っていますと話されました。

お二人のお話を聞いて、お互いの信頼関係が築かれているので、『iichiko』のイメージがぶれないのだと思いました。



(河北氏の講演の様子)



(西氏の講演の様子)

## 【エクスカーションコース一覧】

平成28年10月 23日(日) エクスカーション参加

A コース 歴史と平和を考える 宇佐神宮・戦争遺跡を巡る旅

**B コース** 杵築の町並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る国東半島 特別拝観ツアー

C コース おおいた建築巡礼～巨匠達の名建築～

D コース 別府と温泉文化と歴史遺産めぐり

**E コース** 静寂な山荘と湯の坪街道の秋を巡る湯布院のまちづくりのビジョンを学ぶ

～オシャレなお土産店、カフェ、食べ歩きのお土産

院の真実～

## 地域交流見学会(エクスカーション)

### Bコース

杵築の町並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る国東半島特別参拝ツアー

報告者: 桂川麻里

エクスカーションのコースは全部で5コースありましたが、自分ではなかなか回れそうにない、国東半島のコースを選びました。

8:00に大分集合で出発しました。当初は1台のバスで巡る予定だったのですが、予定していたよりはるかに参加人数が多く2台のバスで巡りました。

最初は大分の小京都と呼ばれる「杵築の城下町」を散策しました。杵築城を中心に高台に武家屋敷が南北に配置され、その合間に商人の町が挟まれているので、「サンドイッチ型」城下町と言われ、全国の城下町の中でもこの形式はここだけと言われているそうです。



(町並み見学の様子)



(坂道)

南北の高台の武家屋敷に上がっていく階段は、商人の通りの主な屋号を付け〇〇屋の坂とそれぞれ呼ばれています。

バスを降りて、武家屋敷の中で一番大きな大原邸へ向かう途中、北浜口番所を通りましたが、その名が示す通り、昔は砂浜がその近辺まで来ていたようです。



(ボランティアガイドさんから説明を受ける)

大原邸は京都の大原三千院より移ってきたので、大原と名乗っていたようです。内部はすごく豪華という印象ではありませんでしたが、庭園と建物のバランスがよく、もう少しじっくり見たかったのですが、他の見学者の方々もみえたので、主要な部分のみ見ていきました。



(大原邸 内部)



(大原邸 庭)

一般的に、畳数は6帖間、8帖間のように偶数ですが、偶数が不吉とされていたため、あえて7.5帖等のように奇数で納めているのは初めて見たので面白いと思いました。

雨で、思ったように散策は出来ませんでした。が、杵築城の姿だけでも拝見したかったです。

バスへ戻り杵築ふるさと産業館でバスガイドさんお勧めのジュース、「つぶらなかぼす」を購入し喉を潤しました。

次に向かったのが、「六郷満山 富貴寺」です。ここは平安後期に建立されたお寺で、大堂内部の壁画の損傷が激しい為、天候によっては内部の拝観が出来ないそうです。



(富貴寺 大堂)

そして最悪なことに雨脚が強くなってきたので、もう見られないけど、外観だけでも良いかなと思っていましたが、JTBさんが到着前に電話連絡をしてくれてくれたおかげか、拝観することが出来ました。

壁画を守るために内部は薄暗いままでしたが、しばらくして目が慣れてくると、壁画が壁の中から浮かび上がってきてとてもきれいでした。

壁画を復元させたものが、大分県立歴史博物館で見ることが出来るそうです。一度訪れてみたいです。

大堂は九州に現存する最古の木造建築で榎の大木一本のみで建てられたと言われているそうです。大堂の前に大きな榎の木が一本ありましたが、それよりももっと大きかったのだろうと予想されました。



(榎の木)

大堂の外の左手には宝篋印塔のような国東塔と呼ばれる石塔がありましたが、この形の塔はこの国東半島でしか見られない形だそうです。



(石塔)

貴重なものがいっぱい詰まった富貴寺ですが、檀家さんが10件ほどしかなく、内部の拝観料も200円の為、なかなか整備が出来ない状態だそうですが、拝観料が上がっても一見の価値があるものだと思います。

次は「旬彩南蔵」でお待ちかねの昼食です。ここは「豊後高田昭和の町」の一角にある「昭和ロマン蔵」のこれまた一角にありました。



(昭和ロマン蔵入り口)

松花堂弁当を頂いて、ちょうど落花生祭りが行われていたのでゆで落花生を頂き、昭和30年代くらいの車に乗らせて頂いたりして、楽しみました。



(松花堂弁当)



(童心に戻りました。)

昭和32年式のボンネットバスを修理して運行もさせているそうです。走っているところは見る事が出来ませんが、きれいに仕上がっていてカッコ良かったです。



(ボンネットバス)

最後に訪れたのは「峨眉山 文殊仙寺」でした。が、その道中、国東半島では石仏が至る所にあるということで、車中からでしたが見せて頂きました。大きな岩にそのまま浮彫りにしてあるのがほとんどだそうです。

文殊仙寺に到着し、本殿までは300段の石段を上がって行きました。途中に仁王像がありました。国東半島では、仁王像も木造ではなく石造だそうです。先の富貴寺も石造の仁王様でした。



(石像の仁王像)



(階段を上る)

本殿の見えるとこまで上って行って、見上げるとあまりの崖の高さと近さに驚きました。その崖の中に秘仏である文殊菩薩様が鎮座されているそうです。12年に一度卯の年に御開帳されるそうです。まだまだ先ですが、これまた見てみたいです。



(本殿の後ろの白く見えている部分は岩です。)

本殿の中で護摩祈禱して頂きました。護摩祈禱は初めてですし、テレビで拝見する時は後ろからの映像しか見たことはありませんでしたが、人数が多いおかげで!?横から拝見させて頂きました。とても貴重な体験で、知恵が授かった気がします。



(護摩祈禱の様子)

先程からお寺なのに本殿と書いていますが、ここは古来より神仏習合の形態を保っているため、本堂ではなく本殿と言っているようです。秘仏が納められている前面の扉の前には神様が祀られておりその前で護摩祈禱も行いました。

また、本殿横には絵馬もたくさん並べられていました。お寺の境内に神社という形式はいくつもありますが、ここまで一緒というのは初めてでとても神秘的な感じを受けました。

初めてのエクスカージョン参加でしたが、こんな面白いものに今まで参加してないのがもったいなく思いました。

道中、バスガイドさんの上手な誘導のおかげで、自分ではなかなか回れそうにないので今回このコースにしましたが、もう一度訪れて、自家用車で周りたいぐらい良いところでした。

## エクサカーション Eコース

### (湯布院のまちづくりのビジョンを学ぶ)

報告者: 小林教子

新潟の古民家を移築再生した「山荘 無量塔（むらた）」と磯崎新氏設計の由布院駅見学と駅前と湯の坪街道の散策をした。藤井会長と河村青年委員長と同行。

最初に総合庁舎にて、10年前のNHK「プロジェクトX」を鑑賞後、市の担当者から景観法に基づく景観計画協定についての話を伺う。これはメインストリートの湯の坪街道周辺地区で、昭和50年頃から行われてきた地域の暗黙のルールを外部参加者に分かり易くするために明文化したものであるという。

建築計画は①壁面後退（1M）②高さ制限（10又は8M）、協定は①商い協定（商品陳列・植栽・照明）②看板協定（大きさ・高さ・色…彩度4~6）③紳士協定から成る。セブンイレブンが協定地区内外に2軒存在するが看板の色が微妙に違っているのが興味深い。

昼食は、「プロジェクトX」で松造に奮闘した3人の中の一人が経営されている老舗の旅館の系列店で懐石風の食事をいただきました。

観光地化しているので、外国からの観光客が多い（特に中国）。日曜日であったため騒々しく、残念ながら、馬車を見ることも湯布院のテーマである田んぼやその風景も見る時間はなかった。次回はゆっくりと回りたいものである。



(由布院駅舎)



(由布院駅内部)



(昼食会場)



(暗い看板のセブンイレブン)





(山荘 無量塔)



(山荘 無量塔内部)

年通り受付と質疑のマイク、終了時のアンケート回収をお手伝いしました。事前の整理券配布はあまり振るわず、参加者の人数が心配されましたが、当日は予想外に多くの方が集まりよかったです。

受付も慌ただしく講演会が始まり、大西氏の作品の豊かな発想と感性に驚かされました。私の日々慌ただしい業務と違い、夢のある暖かな作品の話で大変勉強になりました。質疑応答も活発で時間が足りないくらいでした。大変有意義な講演会だったと思います。



(受付の様子)



## 第36回建築文化講演会

日 時：平成 28 年 11 月 12 日(土)  
受付 14:00 講演 14:30~17:00  
会 場：岐阜県図書館（岐阜市宇佐 4-2-1  
TEL058-275-5111）  
演 題：「愛情深い大らかな建築」  
講 師：大西 麻貴 氏



(講演会場の様子)

100余名の方が参加してくださりありがとうございます。

### 平成 28 年度 第 36 回

### 建築文化講演会に参加して

報告者：高野栄子

11月12日(土)に今年の文化講演会が岐阜県図書館で開催されました。女性委員会からは堀さん、桂川さん、高野が参加しました。皆さんで例



(講演後 質疑の様子)



## 見学会

### 「モザイクタイルミュージアム」

日 時:平成28年11月17日(木)

13:00~14:30

会 場:モザイクタイルミュージアム

(多治見市笠原町 2082-5 TEL0572-43-5101)

参加者:10名(女性委員7名、一般士会会員3名)



(建物正面前のタイル広場にて)



(建物裏側にて集合写真)

## 多治見市

### モザイクタイルミュージアム見学をして

報告者:津川文江

暑い町で有名な多治見市のモザイクタイルミュージアムを見学しました。

この建物は、地場産業である美濃焼きタイルを題材として まちづくりや 地域活性化のために造られた施設です。

鉄筋コンクリート造 地上4階建てで、1階は、エントランスホール、ショップ、研修室等があり 2階から4階までが展示室となっています。

設計・デザインは、藤森照信氏が担当されました。2011年から5年の歳月をかけ2016年6月に完成し開館したそうです。

外観は、ユニークで不思議な形です。タイルの原材料となる土をイメージしたそう、建物の両サイドには、熊笹と松が植えられ、これも一層、外観のユニークさを増しています。

外壁には、タイルや割れた茶碗の欠片を埋め込まれています。



内部も2階から4階へ続く階段は、登り窯をイメージしてつくられたそうです。



特に感動したのは、最上階の4階です。1955年頃から、笠原町の有志が全国各地で収集したタイル張りの製品や建物の一部が展示されています。モザイク画やモザイクタイル張りの流し台などは、レトロで昭和の時代の懐かしさがこみ上げてきます。



このユニークなミュージアムに多くの人達が訪れ、素敵なモザイクタイルの好きを感じることで、町が元気になることを願います。



(分かり難いかもしれませんが、透明硝子の追突防止シールの代わりにモザイクタイルが貼ってありました。)



## 女性委員会 & 新年会

日 時:平成29年1月19日(木)

12:00~15:00

会 場:十八楼 土蔵レストラン「時季の蔵」

(岐阜市湊町10番地 TEL058-265-1551)

参加者:8名

### 新年会に参加して

報告者:宇佐美 泉

1月19日(木)、十八楼「時季の蔵」で新年会をしました。ここは、平成29年度東海北陸ブロック後期岐阜大会(仮称)のメイン会場に予定しているため、下見を兼ねて食事会をしました。「時季の蔵」は、十八楼本館の東側(道路をはさんで向かい)にあり、約120年前の土蔵を曳家(ひきや)工法で移築された、木造2階建てのレストランです。

席に座ると、既に食前酢、前菜の盛り合わせ、口取りが置いてありました。食前酒で乾杯!前菜の盛り合わせは1月らしく、いくら・鮎の昆布巻き・手毬麩・慈姑・だし巻き卵・赤こんにゃく等、色とりどりで目にも鮮やかでした。口取りは、数の子・菜花・花人参が盛り付けてありました。お吸い物・旬の造り(お刺身)・蓋物(かぶのあんかけ)と続き、次はお凌ぎ(おしのぎ)です。この字が読めなくて、、、先輩の津川さんに教えていただきました。(勉強になります)腹つなぎになるようなもの、あくまで空腹を「しのぐ」程度のものであることらしいです。それで茶碗蒸しが出てきました。以外としっかりと味付けでした。次に、ここの名物の鮎雑炊が出てきました。雑炊がドロツとしていないのは、炊いたご飯を一度水洗いしてから鍋に入れてあるからだそうです。これは先輩の小林さんから教えていただきました。(勉強になります)そのせいかあっさりしていて、でも魚臭くなくさらさらと食べられました。最後はフルーツの盛り合わせをいただきました。

どれもみな、とてもおいしかったです。みなさんとおしゃべりしながら豪華なランチを食べることができて大満足でした。



(新年会 食事の様子)



(「凌ぎ」はどこにありますか?)



(前菜)



(鮎雑炊)



(お吸い物)



(デザート)

## 「たくみ女子会」に参加して

報告者:高野栄子

2月4日土曜日に2回目の「たくみ女子会」が開催されました。

女性委員会からは津川さん、桂川さん、高野が参加しました。今回は前回より多く高校生を含む女子学生が18名、女子エンジニアの方が11名他に建設業の企業の方が13名と学校の先生も数人みえました。建設会館の会議室がほぼ一杯になっていました。

女性委員会からは津川さんがご自身の経験を踏まえ女性が建設業で働くことについてお話されました。やはり結婚と出産というハードルを越えることが大切で大変だということ、仕事は段取りが重要で料理をするのとおなじだそうです。人生の先輩のお話に学生の方々も一生懸命聞き入っていました。私自身もとても参考になりました。

この会は女性技術者のネットワークを構築することも目的に有り、女子学生の方々に建設業で働いてもらうことと、今働いている女性同士のつながりも徐々にできると理想だと思いました。



(会議の様子)



## 第2回 たくみ女子会

日 時:平成29年2月4日(土)

13:30~15:30

会 場:サンレイラ岐阜 1階第1研修室

岐阜県岐阜市藪田東1丁目2番2号

参 加 者:3名



(津川さんの発表の様子)



## 建築士会東海北陸

### ブロック会女性建築士協議会

### 平成28年度後期定例会議つるが大会

日時:平成29年2月25日(土)～26日(日)

会場:敦賀きらめきみなと館

(福井県敦賀市桜町1-1)

敦賀市福祉総合センター「あいあいプラザ」

(福井県敦賀市東洋町4-1)

テーマ「TURUGA de TUNAGU ～時をこえてあしたへ～」

参加者:4名



(会場の敦賀きらめきみなと館です)



(受付の様子)



### 1日目 平成29年2月25日(土)

会場:敦賀きらめきみなと館

(福井県敦賀市桜町1-1)

開会式 12:00～12:45

分科会 13:00～17:15

第1分科会 テーマ:命・暮らし・エネルギー

(内容)原子力発電所見学、まちあるき

第2分科会 テーマ:港・鉄道・歴史

(内容)講演会「赤レンガ倉庫」、まちあるき

懇親会 18:30～20:30



(福井県の素材の展示)

今回岐阜県からは4名の参加でした。

分科会は2名ずつに分かれて、参加しました。

全体としては青年142名、女性35名、合計177名



(開会式の様子)

## 第1分科会:「VIVO」

### ～命・暮らし・エネルギー～に参加して

報告者:桂川麻里

分科会は2パターン用意されていましたが、私は原子力発電所の見学が設定された第1分科会を選びました。

第1分科会は原子力発電所からまちあるきをするA・Bグループとその反対のC・Dのグループに分かれ、私はBグループとして参加しました。

まず、A・Bグループはバスに乗って「敦賀原子力館」へ向かいました。C・Dグループはまちあるきへ向かいました。

バスの中では開会式のあった「敦賀きらめきみなと館」から30分くらい時間があるということで、青年委員の活動報告のDVDを各県(石川県・富山県・福井県)5分ずつ拝見させていただきました。

バスを降りて、原子力館へ入る前に全員「免許証提出」をしました。第1分科会に参加する人達は事前に、免許証の番号等を知らせてあり、その照合をするらしいです。

その後、アトミックホールへ案内され、15分程敦賀発電所の案内映像を見せて頂き、その後館長さんにもう少し詳しくお話をして頂きました。

敦賀発電所は1号機と2号機とありますが、1号機は「沸騰水型軽水炉」で、2号機は「加圧水型軽水炉」と異なる種類の原子炉だそうです。

原子炉は同じ形式のものだとばかり思っていたが、正しい情報を得るためにもっと原発について勉強しなければならないと思いました。

昭和41年に着工された1号機は平成27年4月27日に営業運転を停止し、平成28年2月12日に「廃止措置計画認可申請」を原子力規制委員会に

提出したそうです。24年をかけ建屋等解体にまで至る予定だそうです。

そう言った説明を聞いた後で、荷物を全部(貴重品も)おいたままでAグループと別れ、PR館を見学しました。

模型ですが燃料集合体を見せて頂きました。ウランを焼き固めた燃料のペレットが想像以上に小さくて驚きました。

PR館見学の後、原子力館のバスに乗ってよいよ見学です。が、その前に、3号機・4号機の建設予定だった土地に福島事故と同じことにならない対策として準備している「給水車」・「電源車」・「動力ポンプ」を見に行きました。ここは、津波の被害を想定し海拔21mの場所だそうです。津波が起きた場合にガレキ等で邪魔されても進めるように重機も一緒においてありました。

それ以外の対策として、防潮堤を長さ600m、高さ7mで設置予定だそうです。

その後、発電所のゲート前まで行き、私達も金属探知機を通りましたが、バス自体も何重にも渡るチェックを受けました。後で聞いた話ですと、建屋内部まで見学できていたのがアメリカの同時多発テロ以降チェックが厳しくなり、見学もバスに乗ったままとなったそうです。

バスの中からの見学ですが、まず海水ポンプを見せて頂きました。囲いはフェンスのみでしたがここにも津波対策として防護壁を造る予定だそうです。廃炉にしていく方向なので無駄なことのようには思いますが、まず予防するものの建設が先に出来ると良いと思いました。

建屋のそばまで行きましたが、私の勝手な想像でもっとおどろおどろしい感じを持っていた建屋が、想像よりもずっときれいな構内で毒気を抜かれた感じでした。発電所で働く人達がその日は休みということもあり、静かだったのでより一層そう感じたかもしれません。



その後、原子力館まで戻り免許証を返して頂いて、C・Dグループと交代でまちあるきへと向かいました。

行きと同じく戻りも青年委員の活動報告(残りの愛知県・岐阜県・三重県・静岡県)を拝見させて頂きました。東海北陸ブロックで、青年委員と同じ大会に初めて出たので、活動報告を拝見するのは当たり前のことだと思いましたが、いつもは女性委員は冊子でしかその報告を拝見できないそうなので、青年委員がどんなことをしているか分かって良かったです。

まちあるき最初の見学場所は「敦賀私立博物館」です。昭和2年に竣工した銀行をリニューアルしたもので、改修工事をしましたが、コンクリート等は調査の結果構造上問題ないものだったので、構造的にはほとんど手を付けていないそうです。エレベーターは新しくなっていますが、最上階に大正時代のエレベーターが保管されており、レトロな感じで動くのだったらそれに乗って見たかったです。

構造だけでなく銀行当時のカウンターも立派でそのまま使用されていたり、戦争でよく焼け残ってくれたという感じでした。戦争時代は外観を黒く塗って上空から見つかりにくくしていたそうです。

次は博物館の隣にある「みなとつるが山車会館」に行きました。スクリーンシアターにて山車の歴史や祭りの様子が見られて良かったです。開館をじっくり見られなかったので残念でした。

最後に訪れたのは「赤レンガ倉庫」でした。111年前のレンガでイギリス積という積み方で石油倉庫として使用されていたものを、10億円と3年の月日をかけて耐震等して、レストランやジオラマ館等の施設があり、その場を拠点として敦賀のまちを楽しめるようになっているようです。

ジオラマ館では敦賀のまちが昭和初期の街並みが再現されており、その当時の様子が分かる映像も流されます。全長が27.6メートルあり日本三大

ジオラマのひとつだそうです。時間があつたらスイッチバックの体験等してみたかったです。

ちょっと速足の分科会でしたが、自分ではなかなか計画することの出来ない原子力発電所の見学が出来るとても貴重な体験をさせて頂きました。

もっと多くの方に参加して頂きたいと思います。



(館長さんからお話を聞く)



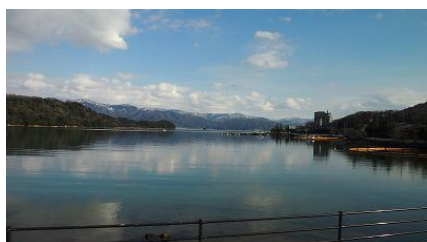
(PR館内部の見学の様子。PR館内でも写真撮影NGの所もありました。)



(入館するときに借りる見学者証)



(免許証返還の様子。福井県建築士会の担当の方が名前を読み上げていただきました。)



(バスから眺める風景はすごくきれいでした。)

## 第2分科会報告

報告者:高野栄子

私は今回 第二分科会に参加しました。第二分科会は「敦賀赤レンガ倉庫」講演会聴講と敦賀市内街歩きでした。

まず各県青年委員の活動報告をDVDで鑑賞し、次に「敦賀赤レンガ倉庫」の再生事業についての講演を聴きました。敦賀市は敦賀港周辺、金ヶ崎地区の整備を進めて見えます。

～敦賀ノスタルジウム～というテーマで、ゆっくりと整備を進めているそうです。実際 現在はまだ赤レンガ倉庫しか整備は進んでいないので静かなところにはぽつんとある観光施設という感じでした。中には飲食店や物産店、ジオラマ館などあり

土曜日の午後でしたので、私たちの団体以外にも訪れる人は多くみえました。

その後街歩きで敦賀市内を歩き、敦賀市立博物館やみなとつが山車会館、人道の港敦賀ゼウムを見学しました。敦賀市立博物館は旧大和田銀行本店の建物を活用した歴史的建築物で国の重要文化財に指定される予定だそうです。外観も内装も見応えのある建物でした。

お昼頃敦賀市に到着した時は雨が降り出し凍えるような寒さでしたが、講演が終わり街歩きに出かける頃には青空になり冬の北陸とは思えないような暖かな街歩きでした。



(赤レンガ倉庫全景。手前の倉庫がレストラン館、奥の倉庫がジオラマ館です。道にはまだ雪が残っています。)



(赤レンガ倉庫内のジオラマ館内部)

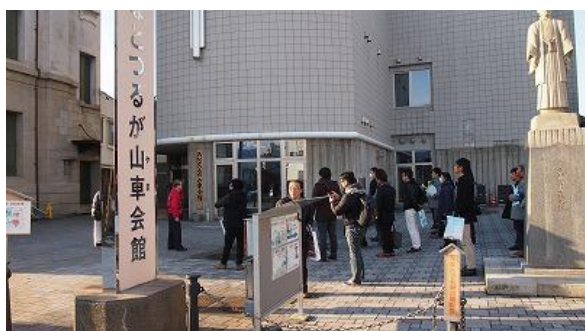


(まちあるきの様子。敦賀きらめきみなと館をバックにして)





(山車会館裏側、反対側に入り口があります。本物が展示してあるので、お祭りの時出し入れをするため大きな開口になっています。)



(山車会館 入り口)



(山車会館 内部の様子)



(敦賀市立博物館は旧大和田銀行本店)



(敦賀市立博物館内部)

## 懇親会に参加して

報告者:長瀬八州余

懇親会は敦賀きらめきみなと館の大ホールでひらかれました。

オープニングはチアリーディングでした。福井県はチアリーディングが盛んで福井県立福井商業高等学校は、全米選手権のインターナショナル・チームパフォーマンス部門で何度も優勝しており今回は敦賀のチーム3組がチアリーディングを披露してくださいました。

立食ではなくテーブル席で席の名前が花になっていました。そして席に用意してあるメニュー表は福井県女性委員が作った物でした。

アトラクションは巨大ジェンカを使っての県対抗戦でした。この巨大ジェンカは土会のイベント等があるときに使用しているという物です。





(私の席はツツジでした。)



(お手製のメニュー表)



(巨大ジェンカを使っでの対抗戦)



(小学生チームから大人チームまで3チームのチアリーディング)



(懇親会会場の様子)

## 2日目 平成29年2月26日(日)

会場:敦賀市福祉総合センター「あいあいプラザ」  
(福井県敦賀市東洋町4-1)

女性建築士協議会 9:00~11:10  
閉会式 11:20~12:00  
閉会式(ご祈祷) 12:30~12:55 氣比神宮にて  
記念撮影

女性建築士協議会がおこなわれている時に平行して青年建築士協議会では講演会がおこなわれていました。



(氣比神宮前にて東海北陸ブロック女性委員集合写真)

## 女性建築士協議会報告

報告者:岐阜県女性委員長 高野栄子

後期定例会議はブロック大会2日目の午前中に行われました。来賓や運営委員長の挨拶の後各県活動報告をしました。

山中塗や螺鈿細工などの伝統工芸体験や建築業の女性職人の方にお話を聞く会、小学校に出前授業の住育活動などさまざま活動をされていました。岐阜県でも参考になることがたくさん有り、来年度の事業の参考にしたいと思いました。

その後 連合会女性委員会や東海北陸ブロック会、青年建築士協議会などの報告、審議事項などあり、岐阜県は来年度の会議の件について説明しました。

協議事項として

### 1、今後の協議会開催について

次年度岐阜会議は青年委員と別々に開催しますが、以後各担当県の裁量で青年と合同でも別々でもいいこととなります。特に規定はなく、開催県の事情に合わせる形になります。

### 2、ブロック事業について

今回の福井で各県建築素材の紹介が一巡しました。そこで次回からは各県の委員会で見学や研修した建物や場所などを他県の方に紹介するコーナーを設けてはどうかという案ができました。詳しくは次回石川前期会議にて協議します。

### 3、東海北陸ブロック会女性建築士協議会 30周年事業について

平成31年度に協議会は30周年の節目にあたります。そこで後期の愛知会議にて周年事業を行う予定になります。交通アクセスの面からも委員の人数もそろそろ愛知県で行う方がいいのではという意見が多かったです。次回石川会議までに愛知の委員長が自県の会に持ち帰り検討され、正式に決定されます。またその内容については順次検討されます。



(会議の様子)



(今回の会議のお菓子、生クリームとカスタードの2種類で1人一個なので、隣の人のを借りて写真撮影)



(気比神宮 大鳥居前にて 集合写真)

来年の岐阜大会の成功祈願ということで岐阜県の委員は本殿に上がることが出来ました。

## 閉会式に参加して

報告者:長瀬八州余

女性建築士協議会後会場を「ふれあいホール」に移動して、閉会式がおこなわれました。



(閉会式にて 女性建築士協議会相談役の筒井さんの挨拶)

気比神宮で平成29年度東海北陸ブロック会岐阜大会の成功祈願と建築士会員の商売繁盛、健康、多幸のご祈禱をするために移動です。予定では1.6Km徒歩で20分の移動ですが、今回岐阜県は桂川さんが車で来ていたので、車移動で楽でした。他県の方に後でお話を聞いたところ荷物を持っての移動は結構大変だったとの事でした。気比神宮の鳥居は日本三大木造鳥居で国の重要文化財に指定されていますが、今は修理のため幌がかかっており、見ることは出来ませんでした。



(お祓い前の様子)



(平成29年度後期ブロック会岐阜大会の成功祈願を願って開催県の岐阜県青年、女性委員長の玉串奉奠)



(青年、女性全体の記念写真)

ご祈祷と集合写真の撮影がすみ解散となりました。

桂川さんに敦賀駅まで送ってもらいました。次は昼食です。調べていた第一位候補は大勢人が並んでして、1時間待ちということで別の駅近くの食堂に入りました。

海鮮丼を頼みましたが、鯖の刺身が入っていました。酢鯖は食べますが、刺身は山に住んでいる者にとっては珍しいです。

美味しかったです。



(敦賀駅近くの食堂でお昼を食べました。海鮮丼です。)

敦賀駅から特急しらさぎで帰路につきます。今回の担当県の福井県の皆様、本当にお世話になりありがとうございました。

## つるがブロック会 2日目

### 青年建築士協議会講演会に参加して

報告者:伊藤麻子

#### ○第1部 防災講演会

「大災害！私達は建築士として何が出来るか・・・」

講師 東角 操

(一級建築士、前福井県議会議員、NPO法人ふくい災害ボランティアネット理事長)

東日本大震災時、福井からのボランティアチームで幅広く、強力に活動された方です。緊迫した生々しい当時の状況をお話いただき、私たちが被災し

た場合、行政ばかりに頼らず自分たちでも活動(特に建築士ができる応急危険度判定)をしなければと訴えられました。

また、今の東北で避難生活先でのコミュニティの継続が難しい・・・そこで

「仮設住宅→復興住宅→まちづくり」の大きな視野で考えていくべきだが、復興と言って都市計画で必ず失敗しているのは、人口流出を算入していないことだ。とのお話には強く賛同しました。今流行りの町おこしやリノベーションなどがお金や施設があっても経営困難に陥るのは、やり続けられる人がいないからだと常々感じているところだったからです。

今までに経験しないような災害に見舞われるようになった昨今、自分はどうか、人のために何が出来るか改めてよく考えたいです。

受講した青年委員たち、若い人が随分増えましたね。この人たちの活躍も期待しています。

#### ○第2部 トークミニディスカッション

「まちとエネルギーと私」

コーディネーター 松山 嘉臣

福井・石川の工務店を中心に長期優良住宅、ZEHなどの仕様作り、販売支援をされている方で、具体的な数字を示して現在のエネルギー事情を説明されました。やはり、省エネは今後の大命題ですね。



(講演会の様子)



## 第16回 気楽にらくだ会

### 「岐阜公園周辺を散策する会」

日時:平成29年3月23日(木)

見学会 13:30~15:30

会場:岐阜公園周辺

参加者:6名

### 「気楽にらくだ会」に参加して

報告者:下川滝美

平成29年3月23日午前中は曇り寒かったのですが、午後からは穏やかな日となりました。

来年度(平成29年度)の後期東海北陸ブロック会にむけて岐阜公園内を散策し下見をしました。

岐阜県建築指導課発行、岐阜県建築士会女性委員会が調査に加わった「ぎふレトロたび」と地元の「金華・井の口マップ」を持ち13時30分にブロック岐阜大会の会場予定の「十八楼」駐車場を出発しました。

遠そうに見えて歩くと5分位でたどり着いた箇所もあり、歩いてみてわかることがたくさんありました。

2017年は、1567年に信長公が岐阜に入城し、岐阜と命名してから450年ということでイベントも多く企画されています。公園内もバリアフリー化工事をしていたり整備が進んでいるようです。後期ブロックには間に合いそうだと話しながら散策をしました。

今日立ち寄ったところは、岐阜市歴史博物館、名和昆虫博物館、資料館など。歴史博物館では見学時間を確認し、華松軒ではお抹茶をいただきました。無料休憩場で委員会を開き後期ブロックの町歩きの構想がだいぶ固まってきました。岐阜のよいところを他県の方に紹介できるよう2017年度はおもてなし準備の年になりそうです。わ

くわくしながら町歩きができた、らくだ会でした。



(集合場所の駐車場からトンネルを通り目的地へ向かいます。)



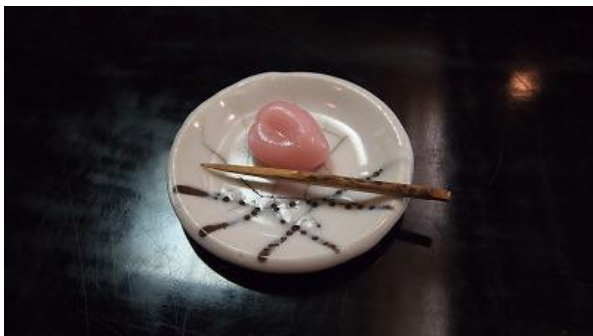
(岐阜公園内にて散策、時間を計って歩きます。)



(三重の塔は綺麗になったのですが、周辺整備が工事中で近くまでは行くことができませんでした。約一年後のブロック会では整備は済んでいるので近くまで行くことはできるのではないかと思います。)



(公園内の華松軒にて休憩、お抹茶をいただきます。)



(おまんじゅは桜の花びらを模した中が白あんのもちでした。)



(ロープウェー乗り場の近くの紅白梅、きれいでした。)



(公園内での見学会の様子。左側の建物が名和昆虫博物館、右側の建物が岐阜市歴史博物館です。名和昆虫博物館は木曜定休で入る事はできませんでした。)

平成29年度東海北陸ブロック女性建築士協議会後期会議は岐阜県が担当県です。

平成30年2月24日(土)25日(日)に岐阜市にて開催されます。

岐阜県の女性委員はその準備のため頑張っています。

分科会での街歩きがどのようなコースになるのか検討中です。御案内したいところが多くて……。



## 岐阜県歴史的建築物

### ガイドブック・目録の作成

岐阜県建築指導課からの委託事業で、平成28年度通年での活動です。

できあがった作品は岐阜県公式ホームページ→社会基盤→開発、地価、建築→歴史的建築物→ガイドブック及び目録

<http://www.pref.gifu.lg.jp/shakai-kiban/kaihatsu/rekisikentiku/11655/index.html>

でご覧になれます。

詳しい配布場所も明記されています。

女性委員会の窓口となった下川さんからの報告です。

## 岐阜県歴史的建築物ガイドブック・目録の製作を担当して

報告者：下川滝美

平成27年12月、岐阜県建築指導課からの委託事業として岐阜県の歴史的建築物のガイドブックおよび目録を製作するという事で士会に依頼がありました。

以前、女性委員会として町歩きや建物調査をしていたことから担当の一員に選んでいただけたのだと思います。原案を3月末にまとめて5月から実施作業です。

ガイドブック、目録についての作業内容は各圏域の建物の写真撮影、内容の確認作業でした。高野委員長に相談したところ女性委員会としてお手伝いをさせていただくことになり有志でこの作業にあたることになりました。

6月3日娘と行った谷汲山をはじめとし高野さんとは西濃地域、郡上から関と二日間調査をしました。西濃地域ではHPに掲載されていた建物の周りの風景を頼りに建物を探していたら土地改良でまったく違った風景になっていたり、高齢者の一人暮らしな

どで建物の存続が難しくなっているものなどもあり歴史的建築物を維持していくことは大変なことなのだと改めて感じました。



郡上では社会見学の中学生や外国人の観光客が多く、目的の写真を撮るのに苦労したことが思い出されます。



岐阜地域は地元に住んでおられる小林さんの案内で津川さんと3人で建物を見て回りました。以前女性委員会で歩いた町並みですが解説を聞きながらおしゃれな古い建物を改装したカフェでお茶を飲み楽しいひと時でした。



東濃地域は長瀬さんと桂川さんと一緒に回りました。私は最寄の駅まで電車で行きそこから合流です。多治見駅からスタートをしました。桂川さんは大学時代に研究室でも建物調査をしていたということでとても頼りになりました。また長瀬さんの友達の紹介で予定になかった建物でしたが窯元を紹介してもらいました。

雪国からの移築されたという太材の素敵な展示場での元気なおばあさんとの出会いもこの後の女性委員会の活動につながりました。

長瀬さん桂川さんにはこの後も追加調査で写真を撮りに行ってもらいました。地元しかわからないこともたくさん教えていただきちょっとした小旅行でした。



7月に入ってから飛騨地域の調査をしました。飛騨は広く大塚さんには長距離運伝でお世話になりました。

高山の古い町並みでは高山の建物の特徴を大塚さんの解説を

伊藤さん、井之口さんと一緒に聞きながら歩きました。

夕方になり灯りがもれる中で雨あがりの町並みはしっとりしていい雰囲気でした。

次の日午前中は井之口さんと飛騨古川の町並み散策。午後から大雨となりましたがなんとか写真を撮ることができました。



また調査承諾のお返事がなく建物にたどりつくまでは不安な建物もチャイムを押すと高齢者の方が出られて大切に使用している建物のお話を聞くことができ、安心したことも思い出されます。

県との契約期限が近くなった頃、大野町の3件の建物の写真が不鮮明なことが判明しました。再度撮り直しです。地元の宇佐美さんや飯沼さんから場所をお聞きして一緒にお話を聞いて写真を撮らせてもらいました。とても一人では飛び込んでいけない



ところも地元の方がいると心強くよい調査ができました。

一連の調査の後も専門家の方から写真への希望などから何度も建物まで足を運び良い角度を選んで写真を撮りつつ建物の話をボランティアガイドの方から聞くことができました。

町並みを守っているボランティアの方々の熱い思いを聞きながら高齢化等により活動を継続していくことの難しさも聞きました。

1月21日の景観シンポジウムでは、以前女性委員会でガイドをしてもらった赤坂宿の折戸さんもパネラーとして参加されていました。また長瀬さんたちと歩いて町並みの美しさに感動した中津川本町の町並みは偶然にも活動の発表をされました。

この事業を皆さんの協力で女性委員会の活動としてできたことに感謝申し上げます。

今後もこの経験をこれからの委員会活動に役立てていきたいと思えます。

一緒に回っていただいた皆様ありがとうございました。

## 平成28年度 女性委員会総会に参加して

報告者:長瀬八州余

平成28年度女性委員会の最後を締めくくる総会が、平成29年5月25日(木)「萬松館」にて参加者8名でおこなわれました。

萬松館は三千坪の日本庭園がある金華山麓の伝統料亭です。

朝から雨降りで嫌だなあと感じていましたが、受付を済ませ、お部屋へ案内していただく道中、廊下から眺める新緑が雨に濡れてきれいで、雨でよかったなあと思えました。

今回はランチメニューの「旬彩御膳」をいただきましたが、私たちの他に2組のグループが同室でした。

お食事は上品できれいで美味しかったです。食事後、総会と平成29年度第1回女性委員会が開かれました。

今年度は東海北陸ブロック会後期が来年2月に岐阜県が担当県で開かれるのでその準備で前回に引続き、岐阜市井の口地区の街歩きをしました。

午後からは雨も上がり、地元の小林さんの案内で回りました。

地元だから知っている裏道を通り、お寺の正面に出て、正法寺の岐阜大仏を拝観しました。東大寺、鎌倉の大仏様と併せた三大仏とも称される大仏様です。その他にも曲家の町並みを見学し、小林さんのお知り合いの方のお店に寄ってお話をうかがうなど、いろいろと分科会の参考になりました。

一時間ほど街歩きをして、街歩きの反省会を兼ねてお茶をして解散となりました。



## 平成28年度 総会



(萬松館玄関前にて集合写真)

日時:平成29年5月25日(木) 11:30~15:30

場所:萬松館

(岐阜市大宮町2-18 電話 058-262-0039)

出席者:8名



(食事の様子)



(食事をした部屋)



(井の口地区の町並みの様子)



(食事をした部屋より庭を見る)



(正法寺での見学の様子)



(ふくろう絵工房の店先にて話を聞く)

## 編集後記

40号をお届けします。  
平成28年度後期の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。  
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画  
などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会  
岐阜市藪田南5丁目14番地12号  
岐阜県シンクタンク庁舎4階  
TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス [kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)



※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

